

緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ、既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ、今ヤ昭和十年ノ統計書ヲ編纂スルニ至レリ、本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ「土地及戸口等」其ノ二ヲ「學事」其ノ三ヲ「産業」其ノ四ヲ「警察衛生等」ト爲ス。

各編收録スル資料ハ主トシテ市町村及學校ノ報告並廳内ノ調査ニ依リ或ハ關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ。蓋シ世運ノ推移學術ノ進展ニ基キ統計ノ用益多キヲ加フ是ヲ以テ調査ノ正確ヲ期スルト共ニ表章方法ヲ更メ或ハ新ニ收録シタルモノ尠シトセス。然リト雖尙遺憾ナキヲ保セザルニ依リ漸次之ガ改善ニ努メ時世ノ要求ニ應セシムル所アラムトス。

昭和十二年三月

福井縣總務部

昭和十年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和十年又ハ昭和十年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又已ムヲ得サルモノハ昭和九年若ハ昭和九年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一歴年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數、一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ。

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「●●●」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「-」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和十年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說..... 1

土 地

1 土地總段別.....	4
2 官有地.....	4
3 民有有租地地積及賃貸價格.....	4
4 民有無租地.....	5
5 年期地地積及賃貸價格.....	6

氣 象

6 測候所.....	6
7 氣壓氣溫及濕度.....	6
8 平均氣壓.....	7
9 平均氣溫度.....	7
10 平均溫度.....	7
11 平均雲量.....	8
12 降水日數及降水量.....	8
13 降雪日數及期節.....	8
14 快晴日數.....	9
15 曇天日數.....	9
16 暴風日數.....	9
17 結霜日數.....	10
18 最多風方位.....	10
19 風ノ速度.....	10
20 風ノ平均速度.....	11
21 沿海及河川流域雨量.....	11
22 地方暴風雨信號所.....	12
23 暴風雨標位置.....	12
24 測候用無線電信機.....	12
25 地震計.....	12
26 地震計ニ現ハレタル震動.....	13

戶 口

27 市町村別面積.....	13
28 市郡別人口.....	14
29 市町村別人口.....	15
30 推計人口.....	19
31 本籍人口及現在人口並現住戶數.....	19
32 人口階級別市町村數及人口.....	19
33 人口動態總覽(現住地別).....	20

34 夫妻各自ノ年齡階級及婚姻前ニ於ケル緣事身分別婚姻.....	20
35 夫妻相互ノ年齡階級別婚姻.....	20
36 夫妻相互ノ婚姻前ニ於ケル緣事身分別婚姻.....	20
37 夫妻相互ノ年齡階級別離婚.....	21
38 月別出生死亡及死産.....	21
39 原因及年齡階級別死亡(實數).....	22
40 原因及職業別死亡(實數).....	27

交通及通信

41 官設鐵道線路及敷地.....	31
42 官設鐵道運輸.....	32
43 私設鐵道.....	33
44 私設鐵道運輸.....	33
45 郵 便.....	37
46 電 報.....	38
47 電信線路及線條.....	38
48 電話加入者數.....	39
49 市内電話線路及線條.....	39
50 市外電話線路及線條.....	40
51 電話料收入.....	40
52 諸 車.....	40
53 濱岸延長及港灣.....	41
54 港灣ノ狀況.....	41
55 燈 臺.....	41
56 浮 標.....	41
57 船 舶.....	42
58 港灣入港船舶ノ隻數及噸數.....	42
59 敦賀浦益斯德間汽船乘客人員.....	43

土 功

60 水害員數.....	44
61 水害損失價額.....	44
62 工事別土木費決算.....	44
63 工種別土木費決算.....	44

社寺及宗教

64 神社及神職.....	45
65 寺院及僧侶.....	45
66 各宗派別寺院.....	46

兵 事

66	壯丁教育程度種別	47
68	壯丁體格檢查	47
69	壯丁身長及體重最高最低	47
70	海軍志願兵	47
71	日本赤十字社社員及年酬金	48
72	愛國婦人會	48

議 會

73	貴族院多額納稅議員互選者	49
74	衆議院議員選舉	51
75	縣會議員選舉	52
76	縣會議員選舉無效投票	53
77	縣會及縣參事會	53
78	市會議員選舉	53
79	市會及市參事會	54
80	町村會	54

官 公 吏

81	縣廳各部分課	54
82	休職官吏吏員職員	54
83	縣職員(課別)	55
84	市吏員	56
85	町村吏員	57

財 政

86	縣市町村水利土功組合歲入歲出	58
87	直接稅負擔(決算)	58
88	國 稅	59
89	地 租	60
90	所得稅	60
91	家督相續稅	62
92	遺產相續稅	62
93	第三種所得稅種類別決定額	62
94	繳物消費稅	64
95	營業收益稅	64
96	酒造稅	66
97	國稅滯納人員及金額	66
98	和稅外國庫收入	66
99	國庫支出縣經費	68
100	縣歲入	70
101	縣歲出	70
102	縣 稅	72
103	縣稅滯納處分	73
104	特別會計ニ屬スル縣歲入歲出	74
105	福井市歲入	74
106	福井市歲出	75

107	福井市稅	76
108	福井市瓦斯事業費歲入	76
109	福井市瓦斯事業費歲出	76
110	福井市水道事業費歲入	77
111	福井市水道事業費歲出	78
112	町村歲入	78
113	町村歲出	80
114	町村稅	82
115	普通水利組合歲入	82
116	普通水利組合歲出	83
117	水害豫防組合歲入	84
118	水害豫防組合歲出	84
119	縣有財產ノ一	85
120	縣有財產ノ二	86
121	縣有財產ノ三	86
122	福井市基本財產	86
123	町村基本財產	87

其 他

124	篤行奇特者	87
125	瓦 斯	87
126	瓦斯製造高及消費高	87
127	瓦斯火口數及料金	88
128	令達公布件數	88
129	收受發送文書件數	88

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北緯三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北緯三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十分秒ニ始マリ西ハ東經百三十四度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ境シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦塩ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一大盆地ヲ包擁ス所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。

東北加賀白山ヨリ起レル山脈ハ別山ニ至リ岐レテ二脈ト爲リ重疊起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走り大日、油坂、蠅帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ。一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走リテ經ク嶽、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈鏡ノ諸山ト爲リ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ツク。國境山脈ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛騨ノ境ニ聳エー千九百六十二米白山火山彙ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク蟠屈セル一脈アリテ國見、鷺巢、越知ノ諸山ト爲リ山脚海ニ迫リテ平地ヲ見ズ奇巖屹立シ激湍岩ヲ噴ムノ地多ク北端餘脈盡クソ僅ニ砂丘ヲ形成ス。

河川ハ楨ネ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千仞ノ溪谷ヲ奔リテ險阻ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ルルニ及ビテ流域一帯ヲ灌溉ス平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豊穰ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、八ツ峯西方ニ青葉山等ノ峰巒國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ越前南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ養蠶ノ發達ヲ來スニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八軒ニ達シ嶺北沿岸一帯ハ風曲ニ乏シク港灣ノ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南兩郡ノ沿岸ハ出入甚々多ク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雑極リナキ形貌ヲ有ス越前岬ヨリ西方京都府經ク岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來斷層、沈降、隆起、侵蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀬戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ夏日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

廣 袤

總面積四千二百六十四方軒餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十三位ニシテ山梨縣ニ比シ狹ク富山縣ニ比シ稍大ナリ。然レドモ山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニハ利用面積渺シ

土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬九千九十四町一段歩、内官有地

五千四百六十二町六段、民有地二十三萬三千六百三十一町五段ナリ。

民有租地ハ十八萬五千三十三町四段歩ニシテ民有地ノ約八割ニ當リ民有無租地及免租年期地ハ四萬八千五百九十八町一段歩ナリ。官有地ハ山林四千七百四十四町三段、公私立學校及官公署敷地七百十八町三段ナリ。無租地ハ保安林四萬二千七百七十五町二段歩、社寺地百五十四町三段、公私立學校及諸官衙公署敷地百三十二町四段、墳墓地百八十一町九段、用墨水、溜池、砂防地、井溝、堤塘、道路等ハ千四百四十一町六段、其ノ他ノ土地百十六町四段ナリ。年期地ハ總テ三千七百九十六町三段アリ。

氣 象

本縣ハ一方日本海ニ面シ他方山嶽ニ依リ圍レタル地勢ナルヲ以テ其ノ氣候ハ主ニ海上ヨリノ影響ニ依リ左右セララル傾向ニ在リ。尙溫度ノ如キニ至リテハ本邦中最タルモノニ屬シ殊ニ冬季ノ積雪多ク各種產業ニ影響スル處多シ。

昭和十年十二月ノ平均溫度ハ八十八度ニシテ同年中ノ平均溫度ハ八十度ナリ。氣溫ノ最高ハ八月ノ三十六度三分ニシテ最低ハ一月ノ零下七度一分ナリ。又降水日數ハ十二月ニ最モ多ク二十八日、一月ハ二十六日、二月ハ二十日、其ノ他ノ月ニ在リテモ毎月十日ヲ降ルコトナシ。同年中ノ降水日數ハ二百十六日ニシテ雨天ハ殆ソ三分ノ二ヲ占ム。降水量ハ一月十二月ニ最モ多ク何レモ三百耗以上ニ達シ一年間ヲ通ズレバ實ニ二千七百七十三耗餘ヲ算ス。尙昭和九年十二月二十八日初雪、昭和十年四月四日終雪ナルガ故ニ降雪期間百十六日ニ及ビ最深積二尺ニ達ヒリ又昭和十年中ノ快晴日數ハ僅ニ三十日、曇天百七十六日、暴風三日、結霜日數五十五日等ナリ。(福井測候所調査ニ依ル)

戶 口

世 帯 及 人 口

昭和十年十月一日現在ノ本縣一市十一郡ノ世帯總數ハ十三萬三千五百三十四、總人口六十四萬六千六百五十九人ナリ。總人口中男三十一萬六千四百二十四人、女ハ三十三萬二百三十五人ニシテ女百人ニ付九十六人ニ當リ全國平均女百人ニ付男百一人ニ比シ男ノ割合少キハ纖維工業地タルノ故ナラン。而シテ之ヲ全國總人口六千九百二十五萬四千四百四十八人ニ比較スレバ 0.93%ニ該リ府縣中第四十三位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就キテ見ルニ大正九年ハ 1.07%第四十三位、大正十四年ハ 1.00%第四十四位、昭和五年ハ 0.66%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。總人口六十四萬六千六百五十九人ヲ昭和五年ノ六十一萬八千四百四十四人ニ比スレバ人員ニ於テ二萬八千五百十五人 4.6%ノ増加ニシテ人口減少ヲ示シタル大正九年乃至大正十四年ノ五年間ニ比スレバ著シキ人口増加ト言フベキモ全國平均增加割合 7.5%ニハ猶遠ク及バズ。

人 口 ノ 分 布

次ニ人口ノ縣内分布ヲ見ルニ七萬五千二百七十三人(11.6%)ハ福井市ニ其ノ他ノ郡部ニ在リ。各郡中人口ノ最モ多キハ坂井郡ノ十萬三百二十一人(15.5%)ニシテ大野郡七萬九千八百

五十一人(12.3%)今立郡ノ六萬三千三百七十七人(9.8%)丹生郡ノ五萬八千四百七十七人(9.0%)吉田郡四萬九千四百二十人(7.6%)之ニ亞ギ大飯郡ノ一萬七千五百六十人(2.7%)最モ少シ。

市郡ノ人口増減ヲ檢スルニ大正十四年乃至昭和五年ニ於テ丹生及大飯ノ二郡、昭和五年乃至昭和十年ニ於テ丹生、三方、遠敷及大飯ノ四郡ノ減少シタルヲ除ケバ他ノ何レモ兩期ヲ通シ其ノ人口増加シタリ。

昭和五年乃至昭和十年ノ五箇年ニ於ケル人口増加ノ最モ大ナルハ福井市ノ八千七百五人ニシテ、吉田郡ノ七千八十四人、足羽郡ノ六千五百九十一人、大野郡二千六百六十人、今立郡二千五百六十五人、敦賀郡ノ二千七百七十八人順次之ニ亞グ。然レドモ之ヲ増加割合ヨリ見ルトキハ足羽郡ノ17.3%最モ高ク以下吉田郡ノ16.7%福井市13.1%敦賀郡ノ5.1%今立郡4.2%大野郡ノ3.5%等ノ順序トス。

人口ノ密度

本縣ノ総面積四千二百六十四、四八方軒ヲ以テ総人口六十四萬六千六百五十九人ヲ除ストキハ一方軒當百五十二人ト爲リ全國平均百八十一人ヨリ稍低シ市郡ノ人口密度ヲ檢スルニ福井市ハ一萬五千四百五十六人ヲ示シ、郡部ニ在リテハ吉田郡三百十五人最モ高ク、足羽郡ノ二百八十七人、坂井郡ノ二百四十三人、敦賀郡ノ百八十人、今立郡ノ百七十二人、丹生郡ノ百六十人順次之ニ亞ギ大野郡ノ六十二人最モ低シ。

人口動態

昭和十年中ノ婚姻ハ五千二百九十七件、離婚六百三十二件ニシテ出生ハ男一万五千三百三十九人、女一万十一人、計二万五千五百五十人ニ達シ男女ヨリモ五百二十八人多ク生産シタリ。同年中ニ死亡セルモノハ男六千七百八十八人、女七千五百五十二人、計一万三千八百三十二人ナルガ故ニ出生死亡ノ差ハ六千七百八十八人ノ自然増加トナル尙最近十ヶ年間ニ於ケル平均ハ五千七百五十六人餘ノ増加ヲ示ス。

原因別死亡

昭和十年中ニ於ケル総死亡者ハ一萬三千八百三十二人ニシテ之ヲ原因別ニ示サバ其ノ最高ヲ占ムルハ肺炎千二百六十一人(九一人二分)、之ニ亞グハ老衰千百十七人(八十八人八分)、呼吸器結核千二人(氣管及氣管支ノ淋巴線ヲ含ム)(七十二人四分)、腦出血、腦栓塞及腦血栓九百八十九人(七十一人五分)二歳未満者ノ下痢及腸炎九百八十二人(七十一人)、先天性弱質(一歳未満)、八百五十三人(六十一人七分)、下痢腸炎及腸潰瘍(二歳以上)、八百三十五人(六十八人四分)等ハ其ノ最モ著シキモノナリ。

交通

道 路

交通ノ狀況ハ國道二路線、府縣道二百八路線此ノ總延長百九十萬四千六百六十三米ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ或ハ幅員狭少ト爲レルヲ以テ毎年之ガ改良ニ比較的多額ノ經費ヲ投ジツアリ。

鐵 道

鐵道ハ延長三百三十七軒ニ達シ、北陸本線、小濱線、三國線ノ外ニ私設鐵道七線アリ。更ニ目下建設中ニ屬スル越美線ノ開通ヲ見ルトキハ交通上利益スル所大ナルベシ。

諸 車

諸車ノ昭和十年末現在ニ於テ馬車七百七十臺、牛車八十四臺、荷車二萬七千二百七十二臺、人力車七百七十臺、自動車六百七十二臺、自轉車六萬三千五百臺、其ノ他車百八臺、總數九萬二千五百七十六臺ニ達ス。而シテ此等ノ内自轉車ハ急進的ニ自動車ハ漸進的ニ増加シ人力車ハ著シク減少シ馬車及荷車等ハ自然減少ヲ示セリ。

社 寺 及 宗 教

神 社 及 神 職

昭和十年末本縣ノ神社總數ハ千六百七十社、神職百九十二人アリ内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中社二、國幣小社一、縣社二十五、郷社四十八、村社千二百六十九、無格三百二十二社等ナリ。

寺 院 及 僧 侶

本縣ノ宗教ハ佛教最モ盛ニシテ昭和十年末ニ於ケル寺院總數ハ千六百六十九、僧侶千五百九十七人ニ達シ寺院一ニ付世帯僅ニ七十九ニ當ル。寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗八百七十三、最モ多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞グハ曹洞宗二百七十六、日蓮宗百四十、天台宗百十、淨土宗百五、臨濟宗八十、眞言宗六十三、時宗二十、黃蘗二等ナリ。

兵 事

昭和十年ノ壯丁体格検査人員ハ六千七百四十八人、内甲種千八百九人ニシテ總員二割七分ニ當リ第一乙種四百九十一人(七分)第二乙種千四百三十八人(二割一分)ト爲ル。又丙種二千五百八十一人、丁種四百一十一人、戊種十八人此等ヲ併セテ四割五分ニ當ル。教育程度ハ高等學校卒業以上及同等ノ者二百六十九人、中學校卒業及同等ノ者七百二十五人、高等小學校卒業及同等ノ者四千二百五十五人、尋常小學校卒業及同等ノ者千四百二十七人、尋常小學校未卒業及不就學者百二十人ニシテ尋常小學校未卒業及不就學者ハ漸次其ノ數ヲ減ジツアリ。又検査人員中身長ノ最高ハ一米八〇五、最低一米二九五、体重ノ最重ハ七〇八斤四〇、最輕二八斤〇〇ナリトス。

官 公 吏

縣 職 員

昭和十一年八月一日現在ノ本縣職員ハ千五百七十八人ニシテ其ノ俸給年額九十八萬五千四百七十七圓ト爲ル。内勅任一人、奏任十九人、同待遇者五十二人、判任百六十四人、同待遇者七百三十三人、縣吏員二百九十三人、傭員(雇員ヲ含ム)二百六十四人、囑託五十二人等ナリ。

市 吏 員

昭和十年末現在ニ於テ市長、助役、收入役各一人、主事四人、技師二人、書記六十人、技手十六人、事務屬三十三人、囑託

三人、其ノ他一人、總數百二十二人ニシテ市長ヲ除ク此ノ俸給七萬六千五百六十九圓トナルモ此ノ外名譽職ニ屬スル市長一人、常設委員五人、區長三十八人及區長代理者三十八人等ヲ併セ八十二人アリ。

町 村 吏 員

昭和十年末現在ニ於テ町村長百六十一人、助役百六十四人、収入役百五十五人、區長二千三十三人、同代理者千九百九十一人、書記六百八十八人、事務雇四十七人、書記補二十九人、技術員四十一人、常設委員八百九十二人、其ノ他六人、總數六千二百七人ト爲リ内名譽職ヲ除ク有給吏員ノ俸給年額ハ三十六萬六千八百七十四圓ナリ。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅ニ二十八萬三千余圓ニ過ギザリシガ日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ結果トニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ明治二十九年ニ至リテ約三倍ニ上リ加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣債償還及九頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ヲ増嵩シタリ。茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ルノ必要ニ迫リ明治三十一年及同三十七年度ノ兩回ニ亘リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ノ進歩トニ伴ヒ益々財政ノ膨脹ヲ來タスニ至レリ。加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ増加ヲ來タシ縣費ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ依テ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通ジテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ其ノ他縣民ノ福利増進上已ムナザルモノ等アル爲メ昭和十年度ノ決算ハ六百六十一萬五千七百六十四圓ニ上ルニ至レリ。之ヲ前年度決算ニ比スレバ三十一萬三千九百十七圓ヲ減シタルモ更ニ十年前ノ大正十四年度決算四百五十九萬千四百四十三圓ニ比シ二百二萬四千六百二十一圓ノ増嵩ヲ來タセリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和十年度ニ於テ市費七十萬千三百五十五圓町費四百二十五萬五百六十七圓(何レモ豫算)ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スレバ市町村費ヲ通ジテ實ニ十五倍余ノ多キニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮方針ヲ以テ之ヲ率フル所アリシモ社會ノ進展ニ伴ヒ教育、土木、產業其ノ他各般ノ施設ニ迫ラレ自然經費ノ膨脹ヲ余儀ナカラシメタリ。

諸 稅 及 負 擔

昭和十年度ノ本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅二百二十一萬九千八百四圓、縣稅二百八十九萬五千八百七圓、市町村稅二百四十五萬三千五百八十三圓ニシテ之ヲ一世帶當ニ觀ルトキハ直接國稅十六圓七十六錢、縣稅二十一圓八十八錢、市町村稅十八圓五十三錢ト爲ル。

港 灣

敦 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣潤水極メテ

深ク且ツ暗礁砂洲等ノ障害物ナキ爲メ大船巨舶ト雖モ運航自在且繁盛安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬ヲ投ジテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ次ア明治二十九年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令公布セラルルヤ其ノ一ニモ亦之ヲ加ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ビ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四箇年繼續專業トシテ工費八十万圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮標ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第二期修築工事トシテ大正十年度ヨリ直轄工事ヲ起シ工費十箇年ノ星霜ト三百六十二萬余圓ノ巨費ヲ投ジテ銳意ノガ修築ヲ行ヒ昭和七年三月其ノ竣工ヲ見ルニ至レリ。次ニ歐洲大戰中非常ナル發展ヲ遂ゲタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頽ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ昭和十年中當港ヨリノ移出ハ五萬八千八百四十三噸、價額三百二十九萬七百七十五圓、移入ハ二十九萬五千二百八十九噸此ノ價額千四百五十四萬七千七百三十四圓ニシテ移出ノ主ナルモノハ蔬菜及果實、雜貨、藥製品並ニ布帛及同製品トス果實及布帛製品ハ主トシテ本縣產ノモノノミニテ雜貨ハ京阪地方ヨリ何レモ鐵道ニテ輸送シ來リ北海道(函館、小樽)北鮮(元山、城津、清津、雄基)、露領亞細亞、中華民國及滿洲方面ニ、雜貨及藥製品ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ產スルモノト縣内產トヲ併セ北海道、北鮮地方ニ移出セラル。移入ノ主ナルモノ、内石炭ハ北海道及九州地方ヨリ移入シ多クハ之ヲ鐵道用炭ト爲シ其ノ他ハ本縣及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消費スルモノトス。尙穀類、鮮魚、魚糟類ハ北海道、朝鮮方面ヨリ移入シ縣内ハ勿論滋賀、京阪神及名古屋中央線一圓ニ移出セラルル狀況ニ在リ。